大雪山グレードを確認して、力量に合った登山をしよう！

大雪山国立公園では登山道の区間毎に、登山者自らが行動判断をする目安や、登山環境の程度を、5 段階に分けた
「大雪山グレード」を設定しました。グレードを参考に自己責任で安全登山を心がけましょう。

グレード5 — 大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート

- 地形的条件等から天候判断がより難しく、且つ登山口からの距離や避難小屋の間隔が長くエスケープを取りづらい登山ルートや徒渉や岩場通過等高度な技術を要する登山ルート
- 自然の雰囲気の保持を最優先とした登山ルート
- 登山者自らのリスク管理が必須とされ、極めて高度な行動判断を要求される登山ルート

グレード4 — 大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート

- 地形的条件等から天候判断がより難しい登山ルートや登山口、ロープウェイ駅からの距離が長く日帰りに適さない登山ルート
- 自然の雰囲気の保持を最優先とした登山ルート
- 登山者自らのリスク管理が必要とされ、高度な行動判断を要求される登山ルート

グレード3 — 大雪山の自然を体感する登山ルート

- 登山口、ロープウェイ駅からのアクセスが比較的良く、日帰り程度の距離で設定された登山ルート
- 歩行の快適性よりも自然の雰囲気の保持を優先した登山ルート
- 登山者自らの一定のリスク管理が必要とされ、一定の行動判断を要求される登山ルート

グレード2 — 大雪山の自然とふれあう軽登山ルート

- 登山口、ロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的短距離で設定された登山ルート
- 段差処理、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配意されている登山ルート

グレード1 — 大雪山の自然とふれあう探勝ルート

- 温泉施設やロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的高低差が少なく設定された一般観光利用者向けルート
- 段差処理、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配意されている探勝ルート

「大雪山グレード」のグレード設定の考え方

構成要素 ＼ ランク	グレード5	グレード4	グレード3	グレード2	グレード1
行動判断の要求度・難易度					
評価項目：天候悪化時のリスク回避の難度	高い				低い
評価項目：登山口等からのアクセス	遠い				近い
評価項目：登山施設の充実度	簡素				充実
評価項目：維持管理の程度	低い				高い
登山体験の程度					
評価項目：環境の雰囲気	原生的・原始的				都市的・人為的
評価項目：利用密度	低い				高い
評価項目：利用の雰囲気	静か				にぎやか
評価項目：登山のレベル	挑戦的				手軽
利用想定対象者	登山者				観光客含む

登山者の皆さん、気をつけて！

登山者の皆さんは、自らの判断と責任で自然の中に潜む危険要素を予測してリスクを回避し、安全に
自然を楽しまなければなりません。また、大雪山国立公園の原生的な自然を将来に残すため、ルールやマナーを守りましょう。

気象・気候

大雪山は 2,000m 級の比較的標高の低い山が多いですが、緯度が高い（北に位置する）ため、気象や気候は本州の 3,000m 級の山々に匹敵します。登山計画を立てるときや登山をする前には、QR コードから、大雪山の気象や気候をチェックしましょう。

転倒・滑落

大雪山国立公園には夏でも多くの雪渓や万年雪があります。雪上の歩行の際には、転倒や滑落などしないよう十分な注意が必要です。また、雪渓の下は雪解けが進み大きな空間がある場合があります。このような場所で雪渓を踏み抜くと、転落し大怪我をする場合があります。残雪や地形の状態をよく観察し、雪渓の踏み抜きや崩壊の危険性がないか登山者自身が判断をしてください。

事故に遭ったら…

万が一事故に遭い、救助が必要なときは、警察（110 番）に通報をしてください。警察や地元民間救助隊などが、体を張って遭難者の救助にあたります。救助に要した費用は、遭難者や遺族に請求されることがありますので、山岳保険への加入をおすすめします。また、救助が円滑に行えるよう、登山届は必ず最寄りの警察署または交番・駐在所に提出しましょう。登山届は、北海道警察本部地域企画課に Fax（011-251-3535）やメールで送付することも可能です。

大雪山がいつまでも大雪山であるために

大雪山国立公園の素晴しい自然を将来にわたり維持していくために、登山者の皆さんは次のことに気を付けましょう。

野生動物

大雪山国立公園は野生動物の生活を自然な状態のままで保全していく場所です。

- 野生動物への餌やりはやめましょう

キャンプ

キャンプは自然に影響を与えてしまう行為です。この影響を最小限にして、あなたの次に来る人が気持ちよく利用できるようにしましょう。

- 大雪山国立公園ではキャンプできる場所が決められています
  野営場及び野営指定地でキャンプをしましょう
- 山岳地でのたき火は禁止されています
- 残飯やゴミは全て持ち帰りましょう
- 排水を出さない献立にしましょう
- 植物の上にテントを張るのはやめましょう
- 水場をきれいに使いましょう

登山道

大雪山国立公園では登山道の荒廃が問題になっています。
登山道の荒廃を防ぐために登山者にもできることがあります。

- 登山用ストックの先端部に保護用キャップを付けましょう
- 登山道外にストックを突かないにしましょう
- 登山道内を歩きましょう
- 登山道内に融雪水や降雨水が流れている場所においても、登山道外の自然（植生や地形）を守るため、登山道内を歩けるようにロングスパッツ等を準備しましょう
- 融雪時期や降雨時では流水に加え、登山者の踏圧の影響で登山道が崩壊しやすくなること、および大人数での登山はさらに影響があることを理解してこういう時期の登山はなるべく控えましょう

野生動物

大雪山国立公園は多くの野生動物が生息する場所です。
トレッキングやハイキングをするうえで注意しなければならない動物もいます。

1．ヒグマ

大雪山国立公園はヒグマの生息地です。豊かな自然の象徴であるヒグマが安住できる大雪山国立公園でありつづけるために、登山者の私たちがヒグマのすみかにお邪魔するという心構えで、ヒグマとのトラブルを回避するように注意を払いましょう。ヒグマと人間のあいだでトラブルが発生すると、その原因が人間にあったとしても、ヒグマが駆除されてしまいます。
ヒグマから積極的に人間を襲ったりすることはありませんが、人間側が不適切な行動を取った場合、死を招く事故に至ることがあります。ヒグマとのトラブルを避けるため、ヒグマに近づかない、ヒグマを近づけないよう次の対策が必要です。

① 鈴をつける

ヒグマとの予期せぬ遭遇を避けるため、登山者の存在を音で知らせます。沢沿いや見通しの悪い場所では、笛、声、拍手などで音を出すのも有効です。しかし、爆竹や花火は使用してはいけません。必要以上にヒグマを驚かして突発的な行動を促すことになり、他の登山者にとっても非常に危険です。

② 残飯やゴミを管理する

ヒグマは嗅覚が非常に優れており、たとえ残飯やゴミを地中に埋めても、その場所を掘り当ててしまいます。残飯やゴミを捨てることでヒグマを招き寄せてしまい、大変危険です。残飯やゴミはチャック付きのビニル袋に入れ、においを漏らさないようにして責任を持って保管し、必ず持ち帰りましょう。

③ においや排水を出さない献立にする

嗅覚の敏感なヒグマは、米のとぎ汁のにおいすら嗅ぎ分けることができます。強いにおいのする料理、調理の過程で排水を出してしまう献立は避けましょう。また、食器を洗った水を流すのも同じことですので、食器の汚れは紙などで拭き取り持ち帰りましょう。

④ ペットを連れて行かない

特別に訓練されたベアドックなどを除いては、ヒグマと遭遇した場合に、ペットがヒグマを興奮させてしまう恐れがあり、大変危険です。





2．キタキツネ

北海道に生息するキタキツネには、エキノコックスという寄生虫に感染している個体がいます。こうしたキタキツネの糞にはエキノコックスの卵が含まれており、卵に汚染された山菜や沢水などを直接口にする、あるいは卵が付着した手指を介して人間にも感染します。
人間にエキノコックスが感染しても、すぐには自覚症状が現れず、数年から10数年の潜伏期を経て、上腹部の不快感や膨満感が現れ、しだいに肝機能障害に伴うだるさや黄疸等の症状が現れ、放っておくと肺や脳に病巣が転移したり、命にかかわることもあります。
エキノコックスの感染を防ぐため、沢水や融雪水は、十分に加熱する（60℃10 分間以上）、あるいは卵を除去できる浄水器で濾過してから飲みましょう。

大雪山国立公園 携帯トイレ普及宣言！

～大雪山では、携帯トイレを使用しよう～

私たちは、2018年7月10日、大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言を採択し、次の取組を行って大雪山全体で携帯トイレを普及することにしました。

1．大雪山国立公園では、携帯トイレを適切に使用することで雄大で原始的な景観と共存する登山を推進します。
2．登山者に快く携帯トイレを使ってもらえるような環境づくりを行います。
3．登山者に対して携帯トイレの利用を推進するための呼びかけを行います。
4．携帯トイレの普及に協力してくれる人の輪を広げます。

大雪山国立公園連絡協議会・旭川勤労者山岳会・旭川山岳会・上川山岳会・上富良野十勝岳山岳会・新得山岳会・十勝山岳連盟・美瑛山岳会・富良野山岳会・札幌山岳連盟・日本山岳会北海道支部
日本ヒマラヤ協会北海道・HAT-J 北海道支部・北海道勤労者山岳連盟・北海道山岳ガイド協会・北海道山岳連盟・北海道道央地区勤労者山岳連盟・山のトイレを考える会・大雪山国立公園パークボランティア連絡会

深刻なトイレ問題

大雪山では、トイレのない避難小屋や野営指定地を中心に、し尿散乱や高山植生の消失が大きな問題となっています。



野営指定地に散乱するし尿やティッシュ



トイレのためにお花畑が踏まれ、裸地化

大雪山がいつまでも美しくあるために 登山者のみなさまへのお願い

登 山 前

- **登山前にはトイレに行きましょう。**
- **携帯トイレは登山の必須アイテムです。忘れずに購入しましょう。**

携帯トイレの販売店

登 山 中

- **山のトイレはきれいに使いましょう。**
- **トイレのない避難小屋や野営指定地、水源地付近では、必ず携帯トイレを使用しましょう。し尿や紙は持ち帰り、放置しないようにしましょう。**
- **登山道の途中でも、携帯トイレを使用し、持ち帰るよう努めましょう。**

下 山 後

- **登山口にある携帯トイレ回収ボックスに捨てましょう**（回収ボックスの位置は表面の地図参照）。

携帯トイレの使い方

① 上の部分を切り取ると、結び紐になります。

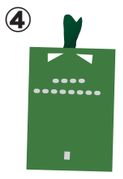


② チャック袋から便袋を取り出し、広げてから便座に被せて使用します。

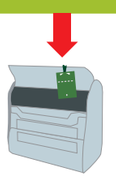
③ 使用後は中の空気を抜いて、袋の口を結びます。



④ チャック袋に入れ、ジッパーを閉じます。



⑤ 登山口にある専用の回収箱に捨てるか、家に持ち帰り処分してください。（※）



※各自治体の処理に従って下さい